

三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club



2022-23 クラブテーマ **未来創造**

2023. 5. 22

地区協報告

No.2448

No.31



会長挨拶

三条南ロータリークラブ
会長エレクト

熊倉 高志

本日は松崎会長不在のため、ピンチヒッターで挨拶いたします。また、土曜日の地区協議会に参加いただいた皆さん、ご多忙の中、ありがとうございました。

後ほど、各セッションについて報告いただきます。よろしく願いいたします。

さて以前、松崎会長のあいさつの中で滝廉太郎作曲の荒城の月のお話をお聞きしました。

その歌詞の中で、春高樓の花の宴の「宴」の部分のオリジナル音を山田耕作が編曲したお話がありました。その違いを是非、続きとして今後の例会あいさつでお願いしたいと思っておりました。本日はそのことに絡めた挨拶としたいと思います。

その編曲部分とは半音上げ下げのシャープフラットか、山田耕作はシャープをとったと言われているようです。それが本当なら原曲は半音上がっていることになり、ことばで宴会と発するときの上がって下がる、えんかいをえんかいに修正したと思った次第です。皆さんの考えはいかがでしょうか。

以前から、音楽は聴いて、歌って楽しいことだけではない、何か奥深いものがあり、その気づきが何か新しい発想につながるのではないかと考えてきました。

特に打楽器の太鼓については、そのリズムは人種をこえて万国誰もが楽しくなる空間を醸し出します。リズム・メロディ・ハーモニーの音楽の3要素といわれるうちのひとつ、リズムです。

しかし、音楽のはじめは道具で叩いてというよりはやはり声、唸り声だったのでないでしょうか。仲間とのコミュニケーションのために危険を知らせたり、呼びかけたり、鳥や動物の声も真似たようにも考えられます。うーといった唸り声、カーと鳴く鳥の声。そこに音のつながりの工夫へとつながるのではないのでしょうか。

あー、うー、おーなどは何となく使いやすいそうですね。日本に文字が現れるのは漢字が伝わった紀元前2、3世紀ころだったと思いますが、大和ことばは漢字に変換されたことや、東洋と西洋の音楽の違いも興味があるところです。また機会がありましたら、話題に出せたらうれしいです。

◆本日の出席：42名中24名

◆先週までの通算出席率：84.69%

◆先週までのメイクアップ▶5/11 三条ローターアクトクラブへ坪井康紀君▶5/13 新潟中央 RC 創立30周年記念式典祝賀会 (ANAクラウンプラザホテル新潟) へ松崎孝史君、太田義人君▶5/18 家庭会合 (松木屋) へ熊倉高志君、吉沢栄一君、松崎孝史君、太田義人君、田中康之君、永桶俊一君、木村譲君、野崎正明君、平松修之君、加藤一芳君、永井篤利君、荒澤威彦君、田代徳太郎君、坪井康紀君、石山昌宏君、桑原朋子さん、長谷川直哉君▶5/18 三条東 RC へ平松修之君

◆幹事報告 太田義人幹事

▶RI第2560地区 地区事務所より 「地区事務所移転」のお知らせ

2023年6月19日(月)より、事務所をホテルオークラ新潟からホテルイタリア軒に移転し、住所が変更になります。電話、FAXは従来通りです。▶新住所〒951-8061 新潟市中央区西堀通七番町1574 ホテルイタリア軒B1

▶次年度第四分区ガバナー補佐より「2023-24年度第四分区会長幹事会」のご案内

日時 2023年6月7日(水) 17:00~

会場 三条ロイヤルホテル

ニコニコボックス

5/22 7,000円 本年度累計 412,000円

熊倉エレクト「本日は松崎さんのピンチヒッターです。先週は地区協参加の皆さん、ありがとうございました。本日、発表もよろしくお願いいたします」

太田幹事「昨日は佐渡を自転車で210km走ってきました。足が重いです」

荒澤君「今日は遠くが霞んでいます。黄砂注意ですね」

渡辺(俊)君「いつも欠席して申し訳ありません。BOXに協力します」

田代君、木村君「BOXに協力します」

銅冶君「BOXにご協力ありがとうございました」



国際ロータリー会長 ジェニファー・ジョーンズ (カナダ)
第2560地区ガバナー 高橋 秀樹 (新潟)
第4分区ガバナー補佐 渡邊 喜彦 (巻)
会長 松崎 孝史
幹事 太田 義人
SAA 桑原 朋子

事務局
〒955-8666 三条市旭町2-5-10
三条信用金庫本店内
TEL 0256-35-3477
FAX 0256-32-7095
E-mail info@sanjo-minami.jp
URL https://www.sanjo-minami.jp

地区研修・協議会報告

2023年5月20日、燕三条地場産業振興センターに於いてRI第2560地区2023-24年度（米山忠俊ガバナー年度）地区協議会研修会の全体会議、懇親会が開かれました。

（※以下、役職の表記は次年度）



熊倉 高志 会長

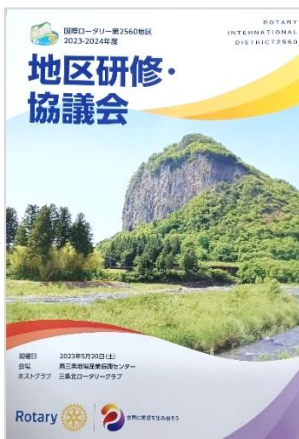
今回は事前に YouTube 配信でセッション別に視聴してから協議会に参加ということで、会場を分けることなく終始全体での開催となりました。本日出席の方から各セッションの報告をお願いいたします。

第1セッション： 吉沢 栄一 幹事

「ロータリーの心で友情を深めよう」をテーマに米山ガバナー年度が始まります。

数値目標として、新規会員入会数：各クラブ10%増、女性会員各クラブ会員の20%とあります。

ロータリアンであることの社会的責任を持ち、ロータリー活動を楽しむこと、またDEI（多様性、公平性、包括性）の促進を徹底し、特にRACや女性会員の増強に注力してほしいということ、ロータリーを楽しんで各クラブの活性化することが重要である、としています。



第3セッション： 田代 徳太郎 職業奉仕委員長



2560地区職業奉仕委員長は燕RCの青柳さんで、セッション動画・配布資料共にご自分が積極的に関わった子ども食堂とフードバンクの体験についてのお話でした。

コロナ禍で海外からの留学生たちはアルバイト先が減って困窮し、日本人も親の収入減によって仕送りが無くなったりアルバイトが無くなったりして学費が払えず大学を辞めざるを得ない学生が出てくる状況。ひとり家庭では子どもを抱えた女性の仕事なくなり、収入が閉ざされ子どもに十分な食事を与えられない貧困家庭が増加するなど。以前からこのような社会問題に対して何か奉仕活動ができないかという意識をお持ちの方でした。

そんな折、知人からフードバンクへの寄付の依頼があり、フードバンクの活動内容を聞いて、また地元燕ではフードバンクが無いことを知り、クラブの会員や知人にも働きかけ、青柳さんは自らNPO法人を会社の別棟に立ち上げました。

フードバンクや子ども食堂は、普通は一般の市井の市民ボランティアが担っているのが通常ですが、一般ボランティアだけに頼っているのは時間的にも資金的にも運営が難しいことから、会社経営者である本人やRC会員が協力し、ボランティア以外にも社員にも協力してもらっていると語っていました。

公的福祉が届かない社会問題に対して、自ら実践してボランティア活動をされている方です。ロータリーの職業奉仕の活動とは少し外れていると思いますが、やっていること自体は崇高なことで批判することではありません。

社員の協力とありますが、社員にボランティアを強いていないか、サービス残業みたいなことになっていないのか？ この辺が疑問です。

ロータリーの会員が一方でボランティア活動をされるのは全く問題ないことですが、クラブの活動として継続的に行うことは難しいと思います。

以前、私が地区財団委員会に関わっていた時、財団資金で子ども食堂などに地区資金を利用できないか、調べたことがありました。

例えば、どこかのクラブの会員がその地域の子ども食堂の立ち上げに関わっていたら、開設時に必要な資金の一部として、財団の資金をクラブの社会奉仕活動の資金として活用できる可能性があります。都内で事例があったように記憶しています。

ただし、財団資金はひとつの事業（ミッション）に一回きりです。継続的な事業に使えるのは、ポリオ撲滅だけです。財団資金は子ども食堂であっても継続的な運営資金には利用できません。



第4セッション：
桑原 朋子
国際奉仕・
青少年交換委員長

『米山年度の活動方針』

- ①海外の友好クラブや姉妹クラブとの交流促進
- ②グローバル補助金や地区補助金を活用した海外での奉仕プロジェクトの促進
- ③国際奉仕フォーラムディスカッションの開催
- ④シンガポール国際大会への参加
- ⑤世界平和の推進について考える

①地区における姉妹クラブ提携は 13 クラブ、友好クラブ提携は 3 クラブ。

コロナ禍で直接訪問は難しい状況でしたが、次年度は活動支援のための情報提供が積極的に行われます。姉妹クラブ提携には労力とコストがかかると聞きましたが、いつか南クラブにも姉妹クラブができることを願いつつ、活性化につながると思いました。

②グローバル補助金申請・予定クラブは 3 クラブ、医療支援の活動がほとんどだそうです。こちら活動支援のための情報提供が積極的に行われます。

③高橋年度では国際奉仕フォーラムディスカッションを開催。米山年度でもローターアクトクラブに参加を呼びかけ一緒に活動できるようなフォーラムが開催されます。

④高橋年度のメルボルン大会の地区における登録者は 24 名。米山年度はシンガポールです。参加しやすい方面としますので、ぜひ参加検討をお願いします。私もサポートいたします。

⑤ウクライナへの支援活動を継続し行います。

第5セッション：
石山 昌宏
青少年奉仕委員長



青少年奉仕委員会は、インターアクト委員会、ローターアクト委員会、ライラ委員会、青少年交換委員会の 4 つの小委員会で構成されています。

私たち三条南ロータリーとしては、ライラ委員会の事業に参加します。

今年のテーマは「県民性をテーマに郷土愛を醸成し郷土の人物に対する知識を深め、活躍できるリーダー像を学ぶ、自分の可能性を発見し行動へと繋げる方法を学ぶ」です。

新潟県民性の歴史の著者、新潟青稜大学特任教授の伊藤充先生とシドニーオリンピック銀メダリスト、水泳の中村真衣さんのお二人をお招きし、ご講演頂く予定だそうです。

また、青少年交換事業も 2 年ぶりに募集を開始し、米山年度からはじまります。

※ 大会プログラムより抜粋

2023-24年度 地区運営方針
「ロータリーの心で友情を深めよう」



国際ロータリー第2560地区
ガバナーエレクト
米山 忠俊 (三条北RC)

本日は2023-24年度地区研修・協議会に各クラブ会長エレクトをはじめ、役員の皆様、ご参加くださりまして、大変ありがとうございます。

ゴードンR I 会長エレクトは、国際協議会での講演で、2023-24年度のテーマを発表されました。

「世界に希望を生み出そう」
CREATE HOPE in the WORLD

この長く続くコロナ禍において、ロータリーが世界に変化をもたらし、ロータリーが世界に希望を取り戻すことが求められています。

「希望は、夢を実現したいと強く願う人たちの夢、想像力、そして勇気の中にあります。」

これは、R I 会長エレクトが講演で引用した言葉で、ポリオワクチン開発者のジョナス・ソーク博士の言葉です。第2560地区でも、このテーマとともに、クラブや委員会の活動が活発化し、地区のすべてのロータリアンが、心に希望を持って活動していただけますよう願います。

まず、第一に私が皆様にお伝えしたいことは「あらゆるロータリー活動の主役は、一つひとつのクラブであり、一人ひとりのロータリアンである」ということです。私たち地区の役割は、活動をサポートする。それだけに過ぎません。一人ひとりのロータリアンが奉仕の理想で活動を行い、それを楽しむことができれば、こんなに素晴らしいことはないでしょう。

そこで私は、23-24年度の地区テーマを「ロータリーの心で友情を深めよう」にいたしました。楽しくない、友情も育まれないようなクラブに入りたいと思う人はいるでしょうか。自分自身が楽しいことが、地域の、ひいては世界の希望を生み出す種になる。ぜひ、そのような気持ちで、活動に取り組んでほしいと思います。

また、様々なニュースが飛び込む中、特に注力しなければいけないトピックがDE Iです。

会員増強のためだけではなく、第2560地区をオープンな組織にするためにも、このDE Iの促進を徹底することが必要です。特にRACや女性会員の増強に力を入れていければ、と考えています。人の内面や外面、つまり価値観、文化、宗教、性格、経験、性的指向、性自認、人種、民族、国籍、言語、性別、年齢、障がい、健康、家族、社会的地位、学歴、職歴等のあらゆる違いすべてを公平に包括的に扱うこと、これがとても重要です。

さらに、モラルの低下も、私が課題に入りたいことの一つであります。一人ひとりのロータリアンで構成されているクラブ、地区ですから、一人ひとりが自分はロータリアンであるという社会的責任の重大さをもう一度確認していただきたいと思います。